

Ⅲ 実施科目報告

1 地理A・LHR

地理A・LHR (おがわ町歩き)	受講生徒:1年生全員	担当者:教諭 守田 亮 花輪 恵 谷野 浩人 1学年団
---------------------	------------	-----------------------------------

(1) 授業のねらい

小川町(駅周辺)を散策することによって、普段見慣れている小川町の新たな発見と問題点に目を向ける。

(2) 実施報告

ア. 実践授業の取組

町から派遣されるガイドさんの案内(1クラス3コース 各コース13~14名)

ガイドさんの話を聞きながら、自分の印象に残ったスポットとその理由を付箋に記入し、Chromebookを使用して写真を撮る。また、散策中に気になるマイナスポイントも付箋に理由をつけて記入する。

イ. 体験的・課題解決的な学習活動・学習成果物

<テキストより>

Q1. あなたが小川町について知っている事は何ですか?

Q2. あなたの小川町のイメージはどうですか?

Q3. 説明を聞いて一番印象に残った場所はどこですか?

その理由を説明してください。友達と共有しよう。

Q4. ☆印をつけた場所は、どんな魅力がありましたか? 写真をもとに説明してください。

Q5. あなたの小川町のイメージはどう変化しましたか?

※横造紙の白地図を使って、自分たちのオリジナルな町歩き地図を作りましょう。



旧玉成舎(養蚕の伝習所)



割烹旅館二葉 山岡鉄舟による扁額

(3) 分析と考察

1年生の6月に実施したことで、「おがわ学」への動機付けだけでなく、クラスのグループ作りのきっかけとなった。「小川町は自然のイメージしかなかったが、いろいろなお店や歴史があることがわかった」「今度は別のコースを歩いてみたいと思った」「友達と話をしながら取り組んで楽しかった」との感想から、町外から進学した生徒だけでなく町内出身の生徒にとっても新しい発見の機会になったようだ。



体育館・教室でグループごとにまとめ作業



体育館・教室で発表



地理A 夏休みの課題 『小川町の〇〇マップ』の作成（個人）
グループ活動で発表した小川町の魅力を示す地図を、個人で作成。

（４）研究成果・今後の課題

おがわ町歩きの実施も3年目を迎え、小川町のボランティアガイドの方々や教員に定着した授業である。生徒の活動の支援の方法など、教職員からもアイデアが加えられてきている。また今年は調べたり、写真を撮る際に、Chromebookを活用した。実施時にはChromebookの扱いに不慣れであった生徒たちであるが、現在では使いこなしている。夏季休業中の課題として、小川町の魅力を示す地図を個人で作成させてきたが、今後はChromebookのスライド等の活用を検討したい。

ボランティアガイドの方々は、「おがわ学フォーラム」にも足を運んでくださった。3年間を通じて、小川高校生の「おがわ学」を支援していただき、一番近くで生徒の変容を見守ってくださることを実感している。今後とも協力をお願いしたいと考えている。

2 日本史

日本史 (小川地域の紙職人と株仲間)	受講生徒:3年生37名	担当者:校長 荳塚 雄一
-----------------------	-------------	--------------

(1) 授業の教材について

ア. 主な教材 『小川町の歴史』所収

- ・「議定一札之事」(文化14(1817)年7月)
- ・「江戸紙問屋にて紙直売許可につき三郡十五か村箱訴」(天保8(1837)年3月)

イ. 教材の考察

これらの史料を教材化する上で、まず「株仲間」について考察する必要がある。一般的に「株仲間」というと、田沼意次の政策との関連で扱われることが多い。幕藩権力による商業資本の取り込みという観点からの位置づけである。しかし、「株仲間」そのものの成立は、古く17世紀末に遡る。また、幕藩権力との結びつきによる経済活動への弊害という観点からは、むしろ19世紀文化文政期のいわゆる「大御所時代」にそれを見出すことができる。

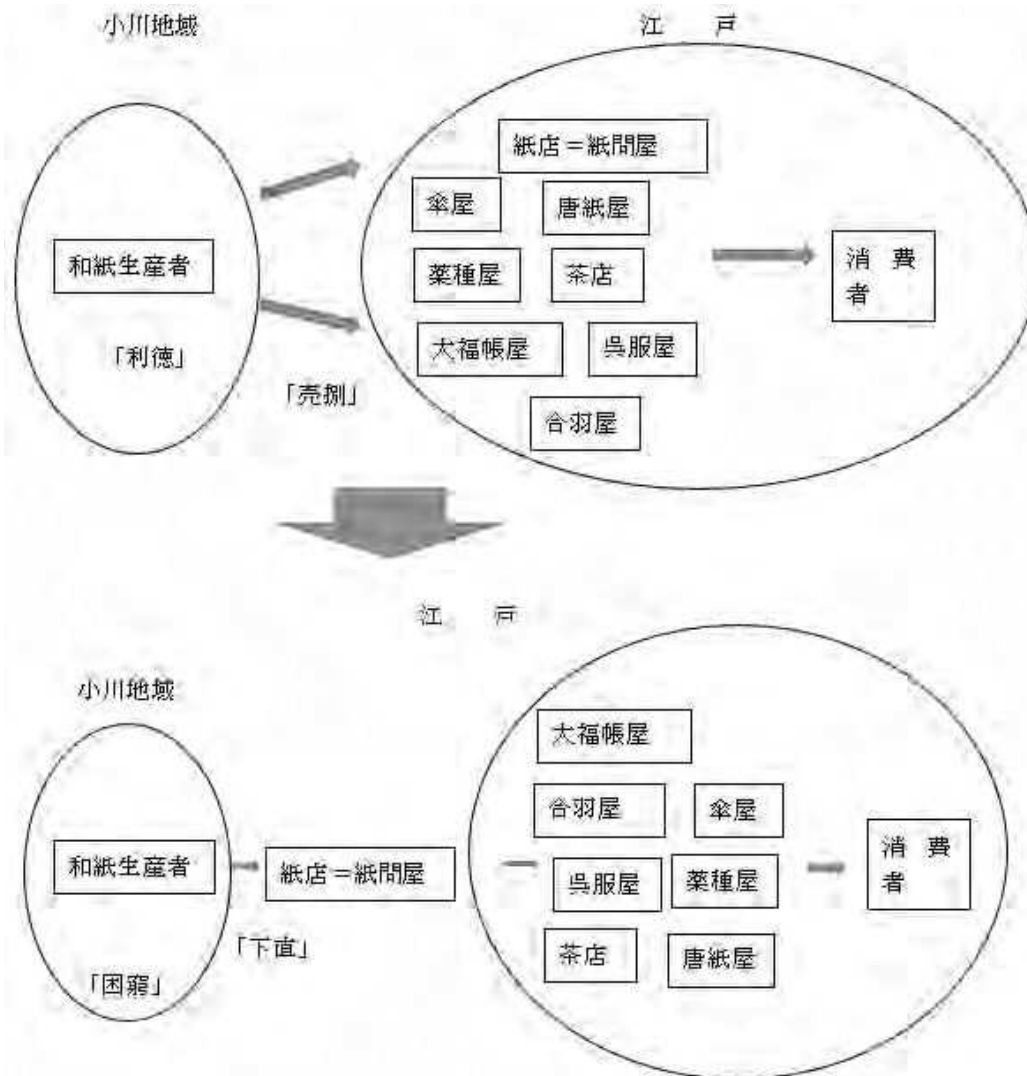
幕藩体制確立期の17世紀を通じて、商品生産力、技術力等において圧倒的に大坂を中心とする畿内・西国の力は大きく、江戸は大坂からの「くんだり荷」に依拠せざるを得なかった。その「くんだり荷」の輸送を担ったのが菱垣廻船等の海運である。1694(元禄7)年、小間物商大坂屋伊兵衛の提唱で「くんだり荷」を受け入れる江戸の問屋仲間の連合組織が結成された。薬種店組、釘店組、酒店組などの10組の参加を得たため、十組問屋と呼ばれた。この中の一つが和紙を扱う紙店組である。株仲間は、本来、このように商品流通の円滑化を目的に民間により設立されたものである。享保の改革に際し、徳川吉宗は、この株仲間を利用して物価の統制を図ったが、この時は、幕府からの独立性が高く冥加金等の上納の義務もなく、代わりに独占の保障という見返りもなかった。

18世紀後半になると、関東を含め全国的に商品生産が発展し、新興の商業資本の成長により従来の特権的な問屋層の地位が脅かされるようになった。他方で、政権の座についた老中田沼意次は、幕府財政立て直しのために商業資本の利用に舵を切った。こうして田沼政権期に、いわゆる株仲間の公認による冥加金の上納とそれに対する反対給付としての特権の保障という関係が成立した。19世紀に入り、文化文政期の「大御所時代」になると、経済の一段の発展による新興商人の台頭が著しく、危機感を強めた従来の間屋層は、1813(文化10)年に十組問屋はじめ、65組の参加する大規模な流通独占組織を立ち上げた。この株仲間に参加する従来の間屋層は、これ以降、幕府への毎年1万200両という巨額の冥加金上納と引き換えに、より強固な独占的特権を得た。

これらの史料は、この文化文政期以降の商品生産者と商品流通の独占化を図る江戸の特権商人との対立の中で生じた訴訟に関連する史料である。1817(文化14)年7月に作成された「議定一札之事」にある「当五ヶ年以前酉年江戸紙問屋四拾七軒ニ相極り」とは、この史料が作成される5年前の酉年(1813・文化10)にあった上述の大規模な株仲間の強化を背景にしたものと考えられる。すなわち、小川地域の和紙生産者たちは、5年前の酉年(1813・文化10)以前までは、「紙店(かみだな)＝十組問屋に属する紙問屋」以外にも、「帳屋(大福帳屋)・薬種屋・傘屋・呉服屋・唐紙屋・茶店・合羽屋」などの「紙類取扱候店々」へ「其向々之紙」(それぞれのニーズに応じた紙)を漉き立て、「売捌」くことで「紙漉家業」の「利徳」を以って独立した生計を営み、年貢を負担できていた。ところが、5年前の酉年(1813・文化10)から株仲間が強化され、「江戸紙問屋四拾七(47)軒」が独占的に紙を扱う店に「相(あい)極(きま)り」、この47軒の間屋以外に和紙を納品することができなくなってしまった(これまでの「帳屋(大福帳屋)・薬種屋・傘屋・呉服屋・唐紙屋・茶店・合羽屋」などの取引先への自由な販売ができなくなってしまった)。さらに「夫(それ)より年々」、「紙直段(値段)」が「下直(下値＝安価)ニ相成」り、紙を生産する小川地方の生産者が「困窮」することになってしまったのである。

こうした株仲間の強化による地方生産者への打撃は、小川地域に限らず全国に波及した。各地の生産者からの訴訟が相次いだほか、商品生産の盛んな関西地方では、たとえば文政6(1823)年には、摂津・河内の村々1007ヶ村が団結して国訴と呼ばれる大規模な集団訴訟にまで発展した。

こうした混乱の中、老中に就任した水野忠邦は、天保の改革において株仲間の解散を断行する。



ウ. 教材の位置づけ

令和4年度から実施される教育課程を踏まえると、日本史探究の大項目「C 近世の日本と世界」の中項目「(3) 近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)」、その小項目「ア」及び「イ」にある「産業の発達」を基に、「社会・経済の仕組みの変化」「幕府や諸藩の政策の変化」に着目して、「主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈」を表現して「幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色」を理解する、という学習活動の中に位置づけられる。

(2) 授業のねらいと評価

ア. 授業のねらい

- ①株仲間の仕組みや資料から読み取った内容を根拠に、訴えに対する判決理由を合理的に判断する。
- ②身近な地域の史料の存在から、株仲間解散令の意義を多面的・多角的に考察する。

イ. ねらいに準拠した評価規準

- ①株仲間の仕組みや資料から読み取った内容を根拠に、訴えに対する判決理由を合理的に判断できる。(思・判・表)
- ②身近な地域の史料の存在から、株仲間解散令の意義を多面的・多角的に考察できる。(思・判・表)

(3) 本時の展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価
導入	本時の流れを把握する。	○前半:株仲間の仕組みを理解する。 ○後半:グループごとに課題を考察する。	
展開	1 株仲間の仕組みを理解する。 2 グループごとに課題を考察する。 ○課題1 江戸幕府の奉行として「小川地域の紙職人」「江戸の株仲間」、どちらを勝たせるか。 ○各グループごとに発表する。 ○課題2「株仲間の解散令」が訴状と共に小川町の旧家に大切に保存されていたのはなぜか。	○江戸幕府の財政再建策と商業発展の関連を理解させる。 ○株仲間の仕組みやプリントの資料をもとに、根拠を示してその理由を記入するよう指導する。 ○株仲間の解散がどんな意味を持ったのかという点に着目させる。	○根拠を基に判決理由が合理的に説明されているか。(思・判・表) ○株仲間の解散が有する意義をふまえ、小川地域の職人の視点で考察できているか。(思・判・表)
まとめ	これまでの学習を振り返り、この訴訟の実際の判決内容を推論する。	○訴訟から約24年後に株仲間の解散令がだされた事実に着目させる。	

(4) 評価場面と評価のポイント

ア.「①株仲間の仕組みや資料から読み取った内容を根拠に、訴えに対する判決理由を合理的に判断できる。(思・判・表)」について

①評価場面 ワークシート「課題1」の記述

②前半で学習した株仲間の仕組みやワークシートの資料文を読み取り、それに基づいて合理的な理由が記入できているかがポイントである。

③**おおむね満足できる状況(B)**と判断される記述例

・小川地域の紙職人を勝たせる場合

「資料の訴状にあるように、株仲間以外の商人に対しても自由に紙を販売できるようにすることにより、紙職人から以前のように税金を徴収できるようになるから」

・江戸の株仲間を勝たせる場合

「授業で習ったように、株仲間は、幕府に対し多額のお金を納めており、幕府の財政再建をする上で欠かせない仕組みであるから」

「授業で習ったように、そもそも株仲間は、幕府が公認したもので幕府がそれを否定することはできないと考えられるから」

④**努力を要する状況(C)**と判断される記述例と改善に向けた支援

・株仲間の仕組みや資料から読み取った内容と判決理由を合理的に関連づけた説明ができない。

「小川の紙職人の人がかわいそうだから」

・資料中の傍線部分に着目させ、小川地域の紙職人の生業を保護することで幕府への「年貢」等が確保できるという意味を理解させる。

イ.「②身近な地域の史料の存在から、株仲間解散令の意義を多面的・多角的に考察できる。(思・判・表)」について

①評価場面 ワークシート「課題2」の記述

②これまでの授業をもとに、江戸幕府の老中が「株仲間の解散令」をだしたことが、小川地域の紙職人の人々にどんな意味を有したかを考察し、小川地域の紙職人の立場で記入できているかがポイントである。

③**おおむね満足できる状況(B)**と判断される記述例

・「この株仲間の解散令により、小川地域の紙職人の人たちは、株仲間を通さず自由に紙を売ることができるようになった。自分たちの生活が守れるという喜びから大切に保管したのでは

ないか。」

④**努力を要する状況（C）**と判断される記述例と改善に向けた支援

- ・これにより、自分たちの要求が認められ紙を自由に販売できるという小川地域の和紙職人の視点から記述できていない。

「幕府が出した重要な法令だから」

- ・株仲間の解散により紙などの商品を自由に販売することができるようになった。それにより小川地域の紙職人たちにどんな意味があったかに着目させる。

（5）成果と課題

ア．生徒の記述から

○課題1：判決の理由

<株仲間>

- ①幕府の財政の安定を図るため、株仲間を勝たせる。
- ②株仲間から一定の利益を得る方法と、それ以外の店からの売買を認めるのでは、株仲間の方が利益がある。また、このことを認めてしまうと一例ができてしまい、他の生産者の不満がふくらんでしまう。
- ③ほかの地域にも紙職人はいる。
- ④株仲間からの運上・冥加がある。幕府が作った制度だから。
- ⑤株仲間があるおかげで幕府財政が安定するから。加えて株仲間によって苦しんでいる人たちを助けたという事例を作ると、このほかにも裁判がおこると予想される。
- ⑥株仲間があるから幕府の財政が安定しているため。
- ⑦株仲間を組織したのは幕府。
- ⑧幕府の財政を安定させるため。
- ⑦奉行はあくまでも江戸幕府の人間なので、小川地域の紙職人を勝たせたら何らかの処分が下るから株仲間を勝たせる。
- ⑧幕府の財政の安定を図るため株仲間を勝たせる。

<小川地域の和紙職人>

- ①幕府への年貢が納められなくなってしまうから。
- ②和紙職人がいろんな店に紙を提供しているのに、つぶれてしまうまでに困窮している。このままだと生産がとぎれてしまい、商業が成り立たない。
- ③収入の元がなくなると、株仲間もすべて機能しなくなるので紙職人を残す。
- ④紙の価格が下がることにより、紙漉き業を続けることができず、「つぶれ百姓」もでるとあったが、このままだと紙漉き職人がいなくなってしまう、自分たちも損になるから。
- ⑤紙職人を負かせてしまうと産業自体が衰退してしまうので、株仲間の利益と幕府の利益も結果的にどちらも少なくなってしまうから。
- ⑥民衆の間で格差が広がると、富んでいる方は幕府に対してなめたような態度をとり、貧しい方は幕府にたいして反意を抱くため。
- ⑦年貢が納められなくなってしまうから。

○課題2：「株仲間の解散令」が大切に保管されてきた理由

- ①時代や指導者が変わった時、また株仲間が作られないように過去に起こったことを残した。
- ②「株仲間の解散令」がだされたときに、この先、もう二度と株仲間ができないようにするため。
- ③証明書にするため。
- ④うれしかったから。また株仲間が作られそうな時、この文書を見せて、幕府の考えを変えようとして。
- ⑤公式に幕府から認められたという証（二度と起こらないようにするため）

イ．成果と課題

課題1については、評価規準に基づき、前半で学習した株仲間の仕組みやワークシートの資料文を読み取り、それに基づいて合理的な理由が記入できているかをポイントとした。上記のように、課題1については、多くの生徒が「おおむね満足できる状況（B）」と評価できる記述

であった。

課題2については、本時のまとめと振り返りとして、これまでの授業をもとに、江戸幕府の老中が「株仲間の解散令」をだしたことが、小川地域の紙職人の人々にどんな意味を有したかを考察し、小川地域の紙職人の立場で記入できているかをポイントとした。上記のように、この課題について記述した生徒は、近世の訴訟文書がそれぞれの地域で大切に保管されてきたという歴史状況を的確に捉えた記述をしており、「十分満足できる状況（A）」と評価できる記述であった。しかし、この課題については、空欄のままの生徒が多数おり、その点が大きな課題である。

空欄が多かったのは、生徒にとって何をもとに、どう考察したらよいかという道筋が見えなかったからだと考えている。課題2を考察する前提として、例えば「株仲間の解散令が幕府から出された時、小川地域の紙職人の人たちは、どんな気持ちだったろうか」など、地域の生産者の視点に立てるような発問を設定し、その上で、あらためて課題2に取り組ませるような配慮が必要だったと考えている。今後の授業改善に生かしたい。

また、もし、授業時間を十分確保できるならば、例えば課題1のグループ発表のあと、それぞれの立場で自分たちの主張を相互に議論した上で、再度、各自の考えを記述するようであれば、対話に基づいた考察が更に深まると考える。こうした点も改善していきたい。

3 世界史B

世界史B (紙の歴史と和紙)	受講生徒:2年生28名	担当者:教諭 花輪 恵
---------------------------	--------------------	--------------------

(1) 授業のねらい

世界の歴史を通して、紙に代表される記録媒体の歴史を学び、各々の特性を知り、和紙との比較をする。紙に代表される記録媒体が改良されてきた過程を知り、これからの未来を予測する。「細川紙」など三和紙がなぜ世界遺産に登録されたか知り、今後の展開を考える。

(2) 実施報告

ア. 授業の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性
・【分析力】 各記録媒体および和紙の特性を知り、その特徴を分析することができる。	・【表現力】 自分が調べたことを、相手に論理的に伝えることができる。	・【協働力】 グループで話し合い、課題に取り組むことができる。

イ. 指導計画

時	指導内容等
1～4	第6章 イスラームの広がりとおアジヤ世界の展開 1.イスラーム帝国の成立 2.各地のイスラーム文化 3.イスラームの都市と文化
5	イスラームがアジヤの技術をヨーロッパに伝えたことから、記録媒体の歴史について考察する。これまで学習してきた、記録媒体と、和紙とを比較する。将来の記録媒体について検証する。歴史的過程から、紙が今後どうなるのか予測する。
6	ゲストティーチャーから和紙についての話を聞く。 和紙の今後の生かし方について考える。

ウ. 授業内容

<5時間目>

ワーク1 『記録』するということは人類の歴史にどのような意味があるか考える。(宿題)

→ 記録することで「歴史」は始まった。記録がなければ、昔の出来事を具体的に知ることはできない。

ワーク2 a.パピルス b.粘土板 c.木簡・竹簡 d.紙 e.羊皮紙 f.パルプ紙 について調べる。

- | | | | | |
|------------|----------|------------|---------|-----|
| ①時代(いつ) | ②利用された地域 | ③原材料 | ④書かれた内容 | ⑤利点 |
| ⑥弱点(磨れた原因) | ⑦和紙との比較 | ⑧その他気づいたこと | | |

→ 土板以外の実物を生徒たちに触れさせた。
グループで2台のタブレットを利用し調べ、比較検討させた。

ワーク3 記録媒体の歴史的進化、未来について考える。

→ グループごとにa～fの進化の過程を考察した。昨年からのコロナ禍で、タブレットを利用して授業を受けるなどしており、今後、さらにデジタル化が進むと予想した。

ワーク4 デジタル化・紙のメリット・デメリットについて、グループで話し合う。

	デジタル化	紙
メリット	すぐに記録できる。共有しやすい。コピーが容易。メールをすぐに送れる。字の上手下手が関係ない。	幅広い年代の誰でも使える。軽い。字の個性がでる。
デメリット	使い方が難しい。データが消えてしまう。漢字が思い出せなくなる。ぬくもりを感じない。水に弱い。	書くことが面倒くさい。破れる。水に弱い。ゴミになる。森林伐採の原因。

ワーク5 授業の振り返り 分かったこと 疑問に思ったことをまとめる。

→ 記録媒体には必ず利点と弱点があったので、必ずしも何かを群を抜いていいわけではない。／それぞれの利点に応じて使い分けをすればいいと思った。／紙からデジタルへ変化してきているが、その次にでてくるものが気になった。／デジタル化もいいが、紙で記録しておくことの良さに気づくことができた。

<6時間目>

ワーク1 小川町、東秩父村原産の「細川紙」は、ユネスコの世界無形文化遺産に、島根の石州半紙、岐阜の本美濃紙とともにその紙漉きの技術が認定されていることを知る。
和紙の魅力について考える。

→ ユネスコの無形文化遺産に認定されたことを知っている生徒が多かった。
他の2つの和紙についても調べてきている生徒が多かった。

ワーク2 ゲストティーチャー(講師)の紹介 小川町在住の和紙作家・中島知子さん

講演「なぜ和紙を漉きたいと思ったか」

『小川町出身で和紙を漉いている家庭で育った。伝統工芸館で働くようになり、他の地域の人が小川の和紙を高評価していること、ユネスコの無形文化遺産に登録されたことに驚いた。小川で和紙の作品を作っている作家が少なかったので自分で作品を作ってみようと思った。作品を作る中で自分でも和紙を漉きたいと思うようになった。細川紙伝承のための研修生制度があることを知り応募。和紙を漉けるようになったが、すばらしい「細川紙」を漉くことは本当に大変なことだと実感している。小川の手漉き和紙は1300年の歴史と伝統を、人の手から手へと守り伝えられて今がある。私が和紙を漉きたいと思った理由は3つ。母や先人の方々のように紙を漉いて、次の世代へつなぐ1人になりたいと思ったこと。自分が漉いた和紙で作品をつくりたいと思ったこと。和紙の美しさや可能性などの魅力を一人でも多くの人に伝えたいと思ったからである。自然の植物から人の手を通し、昔ながらの製法で作られている美しい和紙に少しでも興味をもってもらえたらうれしいと感じている。』

講演後、各グループの生徒からの質問に回答。

<各班からの質問に回答(抜粋)>

Q1. 和紙のどんなところに魅力を感じましたか？

A1. 光を通した時の美しさ。わずかな風もとらえるゆらぎ。水分を吸収していくときのじみ。質感。強さ。保存性。植物からできている。一言では言えない魅力が魅力。

Q2. なぜ和紙に注目したのですか？

A2. 小川といったら和紙。だいたい100軒の紙漉き農家があったとされる産地。もっと和紙を元気にしたいと思ったから。

Q3. 和紙作りを何年やっていますか？

- A3. 作品作りとすると、2005年から始めている。みんなが1歳の時かな？16年？
- Q4. 和紙に興味をもったきっかけは何ですか？
- A4. 母親の話。埼玉伝統工芸会館での出会い。
- Q5. 和紙作りはどれくらいかかるのですか？
- A5. 時間のこと？作品作りはいろいろやっているんで違うけれど、作品の大きさが時間ではなく、どれだけ手間をかけたかで違ってくる。
- Q6. 和紙は平面で書くものというイメージしかなかったのですが、和紙にどんな可能性があると思いますか？
- A6. 平面の和紙のイメージを覆したかった。みんなの中のイメージに期待している。和紙を立体にしたい。でも伸びない。なら縮めてしまおう(和紙をクシャクシャと丸めるその後伸ばす)、固定観念を取っ払って考えて欲しい。

ワーク3 「もし1枚の和紙があったら、あなたはどのように使いますか？」をテーマに、和紙のこれからについて考えた。まず自分にできることを考え、それが後世に和紙を残すためにできることにつながる等、説明した。

→ 講師の中島さんが一枚の和紙を立体にできることを生徒に対しデモンストレーション。その後、生徒に大判の和紙(細川紙)をグループごとに触らせながら、適宜アドバイスしてもらった。



ワーク4 『和紙を何に使うか、その理由は？』グループで話し合ったことを発表する。

- ・食べる …いい匂いがしたから食べてみたいと思った。
- ・ラッピング …丈夫だから。破けないと思った。
- ・ブックカバー …丈夫そうだから。
- ・アクセサリ、灯籠、布団 …軽いから粉碎して布団の中に入れる材料として使えないだろうか？
- ・アクセサリ、身に付けられるもの …プラスチックより軽くて丈夫、長持ちしそうだから。
- ・書道の文字を書く …にじみがきれいにでて、書いた人の味がでるから。
- ・額縁に飾る …伝統的なものだから大切にしたい。
- ・エコバック …和紙の素材は地球に優しいから。

<中島さんのコメント>

「食べる」	小川町の商工会でも楮のお茶や楮の入ったクッキーなどが作られている。他の地域では、和菓子屋さんコラボして商品開発をしているところもある。
-------	---

「布団」	布団の外側はイメージできるけれど、中に入れるにはびっくり。
「エコバック」	和紙の強度のためにこんにやく糊を塗るとさらに強くできるのでは。そうするとイメージが近くなるかな？
「書道」	お習字の意見、すごうれしかった。やはり和紙は書くことが一番なので。書いた人の表現もでるし、書いた人じゃないとわからない、漉いた職人、紙がわかる。いろんな和紙を使ってもらいたいと思う。

ワーク5 授業の振り返り。学んだ感想。わかったこと。疑問に思ったことをまとめる。

- ・和紙の可能性は無限大だと感じた。
- ・和紙の繊維はよく絡んでいて、少しの衝撃では破けないことが分かった。
- ・楮のお茶やクッキーがあることを知り、食べてみたいと思った。
- ・最初から「ありえない」と決めつけるのではなく、「ありうる」と考え発展させていくことが大切だと気が付いた。
- ・生徒の意見をプロの人に聞いてもらう、貴重な体験だった。

(3) 分析と考察

昨年行った授業をアレンジして実施した。今回は、中島さんと生徒たちのコミュニケーションを重視して、授業を展開した。生徒からの質問を事前に中島さんに伝え、講演の中で対象のグループの生徒の顔を見ながら回答して下さった。また、1枚の紙を一瞬で立体にするデモンストレーションをしてからのグループワークでは、生徒たちに大判の細川紙を触らせつつ、アドバイスして下さった。生徒の発表についてもコメントをくださり、「食べる」という答えに対し、すでに研究が行われていると教えていただくと、生徒たちは興奮状態となった。持参していただいた作品を見学させていただく時間では、生徒たちは作品に触れ、熱心に中島さんに質問をしていた。

「和紙の活用方法」について考えさせることが目的の授業であったが、生徒たちは中島さんの「生き方」に関心をもったようだった。和紙作家の中島さんとの交流から、自身のあり方・生き方を考える探究学習になったと考えられる。

(4) 研究成果・今後の課題

昨年の内容でゲストティーチャーと生徒のコミュニケーションの機会を増加させた授業は、生徒、講師、公開授業の参観者にとっても高評価であった。さらに今年度はルーブリックを作成し、生徒に自己評価をさせた。振り返りシートでは、多くの生徒が、今後の「おがわ学」への取組について、前向きなコメントを記入していた。

生徒たちがこの授業の経験を、3年生の総合的な探究の時間や、将来の進路決定に繋げることを期待する。

来年度は1年次の「歴史総合」で同授業を実践できるように準備したい。

おがわ学「紙の歴史と和紙」 (自己評価)

	評 価 文
知識・技能	A: 記録媒体の特性を知り、その特徴を分析することができた。
	B: 記録媒体の特性やその特徴を知ることができた。
	C: 記録媒体について調べることができた。
思考力・判断力・表現力	A: 自分が調べたこと、考えたことを、相手に論理的に伝えることができた。
	B: 自分が調べたこと、考えたことを、相手に伝えることができた。
	C: 自分が調べたこと、考えたことを、うまく伝えられなかった。
主体的に学習に取り組む態度	A: グループで話し合い、積極的に課題に取り組むことができた。
	B: グループで話し合い、課題に取り組むことができた。
	C: グループでの話し合いや、課題への取組が不十分であった。
総 合	A: 和紙の未来について、着眼が幅広く十分に深められた。
	B: 和紙の未来について、着眼ができた。
	C: 和紙の未来について、着眼が不十分であった。

2年 組 藤 原 氏

4 生物基礎

生物基礎 (小川町のバイオーム)	受講生徒:1年生 全員	担当者:教諭 内田 智之
---------------------	-------------	--------------

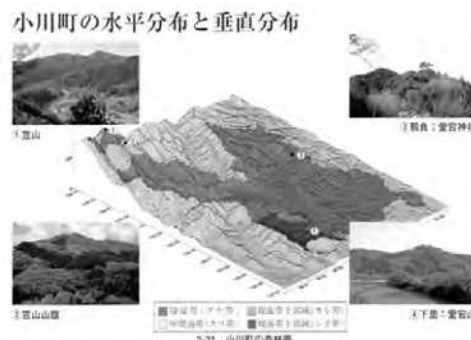
(1) 授業のねらい

本校のある小川町に関する資料から情報を読み取り、小川町の現状の課題と魅力のある町なるために必要なことを考え、意見を出し合い、小川町に対する興味関心・問題意識を持つきっかけとすることで、他教科との連携や学びの実践に繋げる。

(2) 実施報告

ア. 実践授業の取組

月	時数	内容	用意したもの
7	2	小川町の現状の課題と魅力のある町になるために必要なこと <ul style="list-style-type: none"> ・小川町のバイオーム(出前授業) ・学校のある小川町と地元について比較してみよう ・外来生物の繁殖から分かることを考えてみよう 	パワーポイント プリント 樹木の葉
12	2	ジグソー活動 班ごとに考える「魅力あふれる町」に小川町が近づくためには何が必要か話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの考える魅力あふれる町について話し、班としての意見を統一する ・エキスパート資料を利用しクロームブックで調べる ・SDGs の項目になぞらえる ・発表 ・自分の意見をまとめる 	パワーポイント 参考資料 Google フォーム (意見集約)



イ. 体験的・課題解決的な学習活動

登校するためだけに通っていた小川町について資料や夏休みの課題から学び、良いところや課題となるところを見つける良い機会となった。また、小川町在住の生徒と直接意見交換をすることで、それぞれの地元や人の流入を増やすためには何が必要か、というところに想像力を膨らませながら、他班との意見交換をする中で、新しい発見を得られている様子が見られた。



ウ. 学習成果物

- ・ 7月課題ワークシート

→ 学校のある小川町と地元について比較してみよう

小川町以外に在住	小川町在住
<ul style="list-style-type: none"> ・ヤオコー、しまむら発祥地 ・203mのローラー滑り台 ・有機農法 ・栃本親水公園 ・吉田家住宅 ・埼玉の郷土かるたの「お」の札で「折り紙に願いを込めて小川和紙」とうたわれる通り、小川町といえば手漉き和紙といわれるほど小川和紙の伝統産業が有名。 ・普光寺、和紙、仙覚律師遺跡、比企銀行跡 ・槻川・兜川が流れており、建具・酒造・小川和紙などの伝統産業によって「武蔵野小京都」と呼ばれていた。 ・低山のハイキングコース 	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕まつり ・山 ・川 ・酒蔵 ・特産品：和紙、食：忠七めし ・自然

→ 外来生物の繁殖から分かることを考えてみよう

3. 発見した場所 (例) 東松山市新戸神社前の交差点付近	4. 発見した生物名 (種物名)	5. 個体数の生息割合を下のの中から選んでください。
エコミュージアムセンター	ザリガニ	3m × 3mの株の中で、5個体未満は「C」
おため池	アメリカザリガニ	3m × 3mの株の中で、5個体以上いれば「B」
おばあちゃん家の畑	チョウセンイタチ	3m × 3mの株の中で、5個体未満は「C」
つぎがわ	アメリカザリガニ	3m × 3mの株の中で、10個体以上いれば「A」
つぎのわ駅北口	カミキリムシ?	3m × 3mの株の中で、5個体未満は「C」
とさがわ町	ハルジオン	3m × 3mの株の中で、5個体以上いれば「B」
とさがわ町玉川中学校裏の川	アカミミガメ	3m × 3mの株の中で、5個体未満は「C」
とさがわ町光明地区	ブラックバス	水の中のあわからなかった
とさがわ町白石神社前の道	ハルジオン	3m × 3mの株の中で、5個体以上いれば「B」
ななつぬま(東松山市上藤子の自分の家の最寄りの方)	ミシシippアカミミガメ	3m × 3mの株の中で、5個体未満は「C」
ふるさと新座駅近くの人工小川	アメリカザリガニ	3m × 3mの株の中で、5個体未満は「C」
駅近くの用水路	アメリカザリガニ	3m × 3mの株の中で、5個体以上いれば「B」
越生町五大塚付近	オオイトナノフグリ	3m × 3mの株の中で、10個体以上いれば「A」
越生町五積公園の中の草のかけ	とかげ	3m × 3mの株の中で、5個体未満は「C」
越生町山吹の里	クビアカツヤカマキリ	3m × 3mの株の中で、5個体未満は「C」
下沼公園	アメリカザリガニ	3m × 3mの株の中で、20個体以上いれば「S」
家から1キロ圏内	セイヨウサンザシ、ショウジョウソウ、マツバキク、オシロイバナ	セイカアワダチソウは「S」、それ以外の種物は5個~10個程度
家の近く	ヒアリ	3m × 3mの株の中で、5個体以上いれば「B」
家の近くの水が流れているところ(深い)	ザリガニ	一匹
家の近くの川	鱉	3m × 3mの株の中で、5個体未満は「C」
家の近くの野面積の森から	エオキソクテイゴク	3m × 3mの株の中で、5個体以上いれば「B」

・12月課題ワークシート

1. このグループでは「魅力あふれる町」とはどういう町とイメージしましたか?	2. グループで考えた「魅力あふれる町」はSDGsの項目でいうと、どれに該当しますか(複数選択可)
自然が豊かな町にしたい。そのためには、森林が必要です。	陸の豊かさを守ろう
栄えていて、観光地があり自然と共存ができていて教育の支援がある町にしたい。そのためには暮らしやすい環境づくりが必要で、私たち一人ひとりがボランティア活動などで地域をより良くし町や国に訴えかけるといったことをしていく。	すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、安全な水とトイレを世界中に、働きがいも経済成長も、人や国の不平等をなくそう、住み続けられるまちづくりを、気候変動に具体的な対策を、陸の豊かさを守ろう、平和と公正をすべての人に、パートナーシップで目標を達成しよう
地域の人とコミュニケーションのとれる活気溢れる町	貧困をなくそう、飢餓をゼロに、人や国の不平等をなくそう、住み続けられるまちづくりを、平和と公正をすべての人に
自然が豊かで、治安が良い町にしたい。そのためには、地域の清掃を通して地域交流をすることが必要で、私達ひとりひとりが積極的に参加する。	すべての人に健康と福祉を、陸の豊かさを守ろう
他の地域に自慢できることがたくさんある街にしたい。そのためには、すこしでも他の街より自信のあるものを伸ばすことが必要で、私達ひとりひとりが伸ばすことを努力することが大切だと思った。	住み続けられるまちづくりを
いろんな世代の人達が住みやすい町にしたい。そのためには老人ホームや保育園などの施設が必要で、私達一人ひとりが生活をしていく上で改善していくべきことを町に伝えていけばいいと思う。	すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、働きがいも経済成長も、人や国の不平等をなくそう、住み続けられるまちづくりを、平和と公正をすべての人に
町外から多種多様な人々が興味を持ってくれる町にしたい、そのためには体験型の観光を行うことが効果的。それを行うために例えば海外の方のためにインターネットでの特質した広告の記載、観光場所に翻訳者の設置、宿泊所の増設等が必要。	住み続けられるまちづくりを

1. 自分が思う「魅力あふれる町」とはどういう町を想像しますか？	2. あなたが小川町に寄付をしたとします
他の都道府県などに自慢できる物や場所がある街	高齢者・障がい者・子どもへの支援
町の雰囲気や暖かくて、町の有名な場所や食べ物がある。	高齢者・障がい者・子どもへの支援
歴史や文化を大切にしながら新しいものも取り入れる町民にとって住みやすい街	高齢者・障がい者・子どもへの支援
街単体で生活ができる街	商工観光等の振興発展
東京都渋谷区	高齢者・障がい者・子どもへの支援
自然豊かで楽しめるようなテーマパークのある都会	商工観光等の振興発展
お店が沢山あり、人口が多く、きちんと自然と共存ができる、世界の自然環境保全	自然環境保全
その町の伝統や文化を尊重する町	自然環境保全
自然のある町	商工観光等の振興発展
みんなが笑顔の町	自然環境保全

(3) 分析と考察

小川町がどういうところであるのか、理科（生物基礎）の分野から「知る」という段階を出前授業による「小川町のバイオーム」から樹木の違いと植生の特徴について学ぶことができた。また、自分の地元と小川町を比較し、課題を取り組む上で実際に足を運び、体感したものをまとめることで、より具体的な理解に繋がると考えた。

ジグソー活動では、それぞれの資料をクロムブックで調べながら意見を集約し、SDGsの目標を踏まえながら「魅力あふれる町」について話し合った。

(4) 研究成果

今回の成果として、小川町在住の生徒よりも町外の生徒が小川町について良く調べていたこと、「魅力あふれる町」という不明確なテーマに対し、議論が及び、班としての意見と個人の意見を持ち合わせながら、最後の個人のまとめではより精度の高い内容になっている生徒が多く見受けられた。

今後の課題として、1年で行うおがわ学として、「知る」「学ぶ」キッカケであると同時に3年次に行われる内容にリンクしたエキスパート資料があると継続性がより見えてくると考える。

1. グループでの話や他グループの話聞いて、改めて自分で「魅力あふれる町」とはどういう町とイメージしましたか？50文字以上	2. 自分で考えた「魅力あふれる町」はSDGsの項目でいうと、どれに該当しますか（複数選択可）	3. 感想・意見
自慢できる街にしたい。そのためには町民一人一人が自慢できるようなことを伸ばしながら生活することが必要です。私達一人一人が町おこしのためにやれることをやる必要があります。	人や国の不平等をなくそう	
地域の人とコミュニケーションの取れる活気町にしたいそのために地域の人と交流できる場所が必要私達一人ひとりが積極的に関わることができるような雰囲気作りを心がけていく	貧困をなくそう、飢餓をゼロに、住み続けられるまちづくりを、平和と公正をすべての人に	皆の意見を聞いてきれいなまちづくりも大切だと思ったゴミ拾いもできるような街がいいと思った
築いていて観光地があり、自然と共存して教育の支援が行き届いている街。誰でも住みやすい街。持続可能な社会のことを考え地域全体で取り組む街。そのため地域をより良くすることが必要で、私達ひとりひとりがボランティア活動などに進んで取り組み、コミュニケーションを取っていき、国や町に教育の大切さ、支援が行き届いていない現状を知ってもらうための取り組みをしていく。	すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、働きがいも経済成長も、人や国の不平等をなくそう、住み続けられるまちづくりを、気候変動に具体的な対策を、海の豊かさを守ろう、陸の豊かさを守ろう、平和と公正をすべての人に、パートナーシップで目標を達成しよう	どのことに対してでもひとりではできないので、協力することが重要な鍵になると思いました。
幅広い世代の人たちが不自由なく生活できる町にしたい。そのためには老人ホーム、保育園などの施設や住民が暮らしやすくなる制度が必要で、私達一人一人が感じたことを町に積極的に伝えることが大切だと思う。	貧困をなくそう、すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、安全な水とトイレを世界中に、人や国の不平等をなくそう、住み続けられるまちづくりを、平和と公正をすべての人に	小川町にはこれから改善すべき点がたくさんあることに気づかされた。今の自分にできることは限られているけれど少しでも町のために協力していきたい。大人の人はばかりに頼っていないで自分から行動することが大切だと思った。
町にいる一人一人が自分の意志と個性を持っていてその町の文化や伝統を尊重できるような町にしたい。そのためにはみんなが協力しようという考えが必要で私達一人一人が自分以外の人の意見を尊重しながら生活していく。	人や国の不平等をなくそう、住み続けられるまちづくりを、平和と公正をすべての人に	みんなそれぞれ意見があって話し合いをしていくとどんな町が理想かたくさん考えることが出来た。どこの国や地域でもその人たちの理想な町づくりができるような世界になって欲しいと思った。
自然豊かで環境に配慮して人が自然と集まるような、過ごしやすく働きやすい町にしたい。そのために町を発展できる資金と協力してくれる人が必要なので、私達一人ひとりが物や人や金銭の流れを循環させていく。	働きがいも経済成長も、産業と技術革新の基盤をつくろう、住み続けられるまちづくりを	今回のグループワークで魅力的な街を作ることにおいて何が必要でそのためには何をすべきかを考えさせられました。自分ができることはまだまだ少ないですが、これから頑張っていきたいと思いました。
人々の活気が溢れ、さらなる商工業の発展の可能性を見だし他ではできないほどの特質した観光プランがあるそんな町にしたい。そのためには町外、県外のみならず海外からの観光客の方々に来てもらえるような町にする必要があるため、宿泊所の整備や海外の方に小川町を知ってもらうためにインターネット上の広告の記載、各観光場所への翻訳者の設置、なんとなく駅から降りてみたけどよく知らない方向への短時間で回れる観光ルート等を示したガイドマップ、高齢者の方や小さなお子様まで幅広い年齢層に合わせた観光プランの発案、他の場所にはこれだけは絶対負けないぞという強み、町のみで生活に困らないレベル（お店が発展している）の独立性などが必要不可欠だと感じました。	産業と技術革新の基盤をつくる、住み続けられるまちづくりを	おがわ学では小川町の課題を見つけることはできるのですが、1年ということもあってなのかわかりませんが解決をするというステップがないのでそのステップをぜひ1年のうちからやりたいなと思いました。